

あなたのまちを守るヒントになる

自主防災組織の取組事例集

加入者を増やしたい



災害の危険性を把握したい



防災の知識を知らせたい



防災訓練を実施したい



防災資機材や備蓄を進めたい



課題別目次

加入者を増やしたい	女性を主役にすることで活性化 した防災活動	美園小学校区まちづくり協議会 (美園地区自主防災組織) (八尾市)	P4
	「防災ひろば」を通じ活動を“見える化”！ ～地域の方の理解につながる～	山二地区防災対策委員会 (吹田市)	P6
	防災活動を支援するために 年2回の会報誌を発行	大宝自主防災会 (河南町)	P8
防災の知識を知らせたい	小学校を舞台にした防災イベントを開催！ ～若い世代に防災の関心が高まる～	苅田地域活動協議会 (大阪市)	P10
	地域と学校が一体となった防災訓練を実施！ ～防災意識を高める学習～	縄手南校区 自主防災会 (東大阪市)	P12
	美味しい・楽しい訓練 ～防災に役立つ知識を普及～	少路校区自主防災会 (豊中市)	P14
災害の危険性を把握したい	「地域版避難所運営マニュアル」作成を通じて 地域の災害の危険性を把握	茨木地区自主防災会 (茨木市)	P16
	マンション内における災害リスクを把握するため 「地震・津波タイムライン」作成	コスタ・ミラにしきのはま 自主防災会 (貝塚市)	P18
	災害時の危険を回避する避難経路マップを作成 高齢者と子どもをつなぐ訓練を実施	北山本小学校区まちづくり協議会 (北山本地区自主防災組織) (八尾市)	P20
防災訓練を実施したい	保護者が帰宅困難者となり不在の場合等に、 地域と学校が連携して、児童を守るための取組	新金岡校区自主防災会 (堺市)	P22
	さまざまなイベントと同時開催で 訓練の参加者を増やす取組	新東三国地域活動協議会 (大阪市)	P24
	自主防災組織連絡会を中心として 市内自主防災組織が連携し訓練を実施	高槻自主防災組織連絡会 (高槻市)	P26
防災資機材や備蓄を進めたい	災害時協力企業と支援協力について覚書締結 ～訓練連携・災害支援協力・資機材提供～	深江連合振興町会 (大阪市)	P28
	防災倉庫ツアーの実施！ 備蓄品等へ関心集まる	五月が丘地区防災委員会 (吹田市)	P30
	防災無線を活用し、 地域全体の安全確認を実現	美木多校区自治連絡会 (堺市)	P32

美園小学校区まちづくり協議会（美園地区自主防災組織）

美園小学校区

ヒントにしたい！ 活動事例

女性を主役にすることで 活性化した防災活動

美園地区では、もしもの災害に備えて女性のパワーが不可欠であることから、地域の女性が立ち上がり、平成26年に女性防災リーダーが誕生しました。女性防災リーダーは現在11名（うち防災士6名）で防災訓練における指導等、地域の防災活動に当たっています。



活動のきっかけは？

災害はいつ発生するか分からない。
避難所運営における女性目線に立った活動（生理用品などの配布、授乳場所等）の必要性を感じたところからです。



工夫したポイントは？

女性リーダーを中心に活動をいかに広めるかを考えた結果、ネットワークを活用して、女性リーダーの増加を図るとともに、活動への参加者を増やすことがポイントだと考えました。



ヒントにしたい！ 活動事例

どんな効果が？

日頃からの交友関係のネットワークが強力で、仲間をお誘いすることで、活動への参加者の増加が図れました。

また、交友関係を生かして、若年層の防災訓練等への参加者が広がる効果を得ることができました。



その他の取組

- 防災リーダー6名が防災士の資格を取った。
- 防災研修会。（地域の集会所で地域住民を集め、講師として防災研修会を主宰した）
- 防災訓練の指導。（小学校の授業とコラボし、防災訓練において指導者として活動した）



団体概要

美園小学校区

美園小学校区 まちづくり協議会 （美園地区 自主防災組織）

美園小学校区まちづくり協議会は八尾市の推進する地域分権に基づき、防犯・防災の取組による地域の安全・安心、子どもの居場所づくり等の子育て支援、高齢者の孤立防止のための世代間交流事業を推進して、わがまちの課題解決をして住みよいまちづくりを目的とし設立したものであり、その目的遂行のための一つとして、わがまちの防災・減災に取り組む組織が美園地区自主防災組織である。

連絡先

八尾市危機管理課

072-924-9870

山二地区防災対策委員会

吹田市千里丘下

ヒントにしたい！ 活動事例

「防災ひろば」を通じ活動を“見える化”！ ～地域の方の理解につながる～

山田第二小学校で防災時に役立つスキルを体験できるイベントとして「防災ひろば」を開催。消防署・病院等の協力のもと、可搬式ポンプによる放水体験、救命体験、煙体験や緊急搬送体験等を実施しました。小4の防災学習の展示等、小学校の取組も紹介し「防災ひろば」を通じて見える地域防災を目指しています。



活動のきっかけは？

2018年の「大阪北部地震」の後、避難訓練だけでなく体験型訓練の場が必要なのではないかと感じ、「防災ひろば」を開催しました。防災について知らない方に、少しでも楽しみながら体験することで学んでもらえればと企画し運営しています。



工夫したポイントは？

19団体に協力を仰ぎ、幼児から大人まで体験できる内容の多様化を実現、広報においても自治会の枠を越えたチラシ配布やSNSを活用する等の工夫を凝らしました。また、小学生のオープニング演奏や中学生のスタッフ参加等、学校にも協力をいただきました。



ヒントにしたい！ 活動事例

どんな効果が？

活動を「見える化」することで地域の方の理解につながり、新しい人や若い方にも興味を持ってもらえました。会のメンバーが楽しそうにしていると、年齢問わずいろいろな方とつながりを持てます。運営は大変ですが参加者がたくさん来てくださると次の力に結びつき、総合的に地域防災力向上につながります。



その他の取組

- 災害時安否確認カード「無事ですカード」を活用した安否確認訓練。
- 地区一斉メール 登録1621件。（2024.1/17現在）
- 地区独自の可搬式ポンプによる消火訓練。
- 防災情報をYouTube配信「山二防災チャンネル」。
- 災害時要援護者支援の取組。



「山二防災チャンネル」

団体概要

吹田市千里丘下

山二地区
防災対策委員会

校区連合自治会（千里丘連合町会）と連携し、山田第二小学校区内で2008年より活動。2018年に発生した「大阪北部地震」後、活動がさらに活発化。現在、1月に吹田市の一斉合同防災訓練、6月に北部地震にあわせた地区独自訓練（千里丘防災DAY）を実施。2019年には、連合町会の加入の有無に関わらず全世帯に「災害時安否確認カード」（地区 5000 戸に配付）配付。「思いやりとたすけあい、絆の強い地区」を連合町会の理念のもと、地域全体で取組を行う。

連絡先 吹田市危機管理室 06-6384-1753

大宝自主防災会

大阪府南河内郡河南町大宝

ヒントにしたい！ 活動事例

自治会単位の防災活動を支援するために 年2回の会報誌を発行

従来の防災組織構成役員の高齢化や後継者不足により、2019年に少人数の自治会単位とする組織に改編、地区全体の自主防災を支援する「大宝自主防災会」を設立しました。年2回発行している「大宝防災ニュース」では、各地で発生した災害状況や地区内の防災訓練の様子等を掲載しています。地域住民が会報誌を見ることで自己意識が高まり、自主防災への意識が深まります。



活動のきっかけは？

当地域には、土砂災害や内水氾濫、地すべり等の危険が予想される場所が混在し、非耐震化住宅も多く現存します。地区内から、2名が河田防災塾で2年間学び自主防災の大切さを痛感しました。



工夫したポイントは？

大きかった自主防災組織を分散させて小規模の組織で活動することがポイントで、防災意識の向上を図れてきています。また、会報誌やコミュニティタイムラインを発行することで住民の目に触れ、一人ひとりの自己意識が高まり活動の参加に繋がっていくと考えます。



ヒントにしたい! 活動事例

どんな効果が?

2023年は各丁目で防災訓練が実施され、500名が訓練に参加。また、地区内のイベントで防災クイズを実施、近つ飛鳥小学校の6年生と4年生の防災学習に参加し、防災について一緒に学習して地域の小学生との交流を図ることができました。



その他の取組

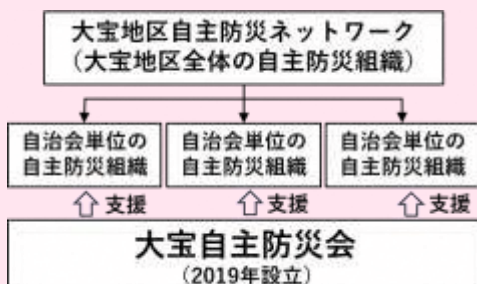
- 防災士資格取得の支援を実施。
現在、地区内には、4名（男性3名、女性1名）の防災士がいます。
- 各丁目でコミュニティタイムラインを作成し、住民説明会を開催。さらに住民の浸透をはかるため再作成を行い、同時に各家庭で防災関連商品を保管できる防災ファイル作成も検討しています。

団体概要

大阪府南河内郡河南町大宝

大宝自主防災会

大宝地区は1丁目から5丁目まであり、11の自治会が存在している。住民に一番近い各自治会単位で自主防災組織を立ち上げることが適当であると判断、2007年に設立していた「大宝地区自主防災ネットワーク」を改変する形で、大宝地区全体の自主防災組織を支援する少人数の組織として、2019年「大宝自主防災会」を設立。構成員18名。



連絡先 河南町危機管理室 0721-93-2500

荻田地域活動協議会

大阪市住吉区荻田

ヒントにしたい！ 活動事例

小学校を舞台にした防災イベントを開催！ ～若い世代に防災の関心が高まる～

荻田小学校で全学年を対象として実施しました。住吉消防署の協力を得て、起震車や消火訓練などを体験。炊き出しのカレーを参加者全員で食べ、午後は防災サバイバルとして講堂で阪神淡路大震災における被災や避難所の状況の動画を視聴し、暗闇での救助、ラジオによる情報収集など防災に関する8つのミッションとクイズを体験してもらいました。



活動のきっかけは？

災害が起きた時に「訓練でやったことがある」と脳裏に浮かべ、人を助けられる子どもたちになってもらいたい。将来の地域防災を担う人材になってもらうためにも、楽しみながら防災に関心が持てるよう、様々な防災知識を習得できるよう取り組みました。



工夫したポイントは？

当日は、学校や消防署、区役所の協力を得るとともに、中学生には炊き出しや小学生の誘導役、各ミッションでの説明役などを、PTAの方々には全体的な進行管理の補助をお願いしました。地域の中学生や小学校PTAの方々にも参加してもらうことがポイントです。



ヒントにしたい！ 活動事例

どんな効果が？

参加した小学生の満足度が高く、災害の怖さや防災の必要性を理解してもらえました。また、中学生やPTAの方々に運営を協力していただいたことで、若い世代にも防災について関心を持ってもらうことができ、地域全体の防災意識の向上につながりました。



その他の取組

住吉区全域で一斉に行う防災訓練において、一時避難場所での安否確認、災害時避難所への避難誘導、災害時避難所開設運営訓練を行いました。また、事前に要配慮者のマッピングを行い、当日の安否確認に活用しました。



団体概要

大阪市住吉区苅田

苅田地域活動協議会

苅田地域活動協議会は、「安心安全で、すみよいまちにしていくために」をモットーに、「地域のさまざまな団体が相互に連携・協力して活動を行い、より多くの人々が自由に参加しながら、取り組んでいくこと」を目的に、平成25年3月25日、苅田連合地域を活動区域として設立し、運営。

連絡先 大阪市住吉区役所地域課 06-6694-9734

縄手南校区 自主防災会

東大阪市下六万寺町

ヒントにしたい！ 活動事例

地域と学校が一体となった防災訓練を実施！ ～防災意識を高める学習～

防災訓練は、地域一体となって防災について学び考える一日とするために、地域住民の多くの方々が参加して訓練することが重要です。そのために、市の危機管理室や消防署、地域の校区自治連合会をはじめとする各種団体、及び地元の小中学校の生徒・保護者にも参加してもらって防災訓練を実施しました。



活動のきっかけは？

児童たちが災害について学習して防災意識を高め、異学年交流を通して地域全体で防災に取り組む意識を高めるなかで、自分たち一人ひとりが「誰かを助ける」という当事者意識を持ち行動できるようになるという目標を掲げて実施しました。



工夫したポイントは？

年度当初に年間予定がほぼ決定される学校行事に合わせるため、前年度の末から学校と防災訓練の日程調整を始め、年度初めには日時を決定しました。訓練内容を含め、地域と学校で何が一緒にできるのかななどの協議を重ねたことがポイントです。



ヒントにしたい! 活動事例

どんな効果が?

学校の方針及び教育目的を踏まえた上で、どのような訓練であれば生徒達の負担を軽減できるかを地域内で何回も会議を重ねました。さらに地域と学校の協議を重ねることで、防災訓練の一体化が実現しました。



その他の取組

小中一貫で1～9年生まで全児童が集まり実施したなか、避難所運営や炊き出しなど、地域住民と児童が協力・分担して様々な取組を行いました。1～6年生は保護者による下校生徒のお迎え（引き渡し訓練）等も実施しました。



団体概要

東大阪市下六万寺町

縄手南校区 自主防災会

縄手南校区地域住民の自主的な防災活動により、地震、風水害、火災その他の災害による被害を未然に防止し、又は軽減することを目的に、火災その他の災害予防や防災に関する知識の普及、防災訓練の実施、災害発生時の防災・減災活動を行う。

連絡先 東大阪市危機管理室 06-4309-3130

少路校区自主防災会

豊中市緑丘・西緑丘

ヒントにしたい！ 活動事例

美味しい・楽しい訓練 ～防災に役立つ知識を普及～

2014年、少路校区内で防災活動をスタートさせたことをきっかけに、現在では、年1度の防災訓練を開催するようになりました。地域の方に、楽しみながら災害時に役立つ知識を知ってもらいたい、多くの方に参加してほしいという思いから、炊き出し訓練や避難所にある資機材の説明や展示、救命救急訓練や水消火器訓練などを行っています。



活動のきっかけは？

少路校区では小学校の父親が参加する「おやじの会」（1999年発足）の活動が盛んで、現役会員をはじめ、OBも活動・協力を行っています。2014年度の「おやじの会」会長が、皆が協力して地域を災害から守るという思いから、各地域団体や学校とともに活動をスタートさせたのがきっかけです。



工夫したポイントは？

「餅つき大会」を行う「おやじの会」が得意とするのは「炊き出し」。炊き出し訓練では、子どもたちが喜んで参加できる内容を考えたことがポイントです。火おこし体験やかまどを使っての豚汁を作り等の体験をして最後においしく食べる。楽しみながら防災について学んでもらうことが大切です。



ヒントにしたい！ 活動事例

どんな効果が？

10年の活動を通して、防災リーダー40名の防災知識の向上に繋がりました。地域の防災力が向上することは、地域として大切なことであると思います。平成28年には、防災教育の一環として、中学生に炊き出し訓練を行う等、活動を継続することで地域の防災意識を高めています。



その他の取組

- 防災倉庫の管理。（年1回の防災訓練の時は、参加された方の資機材を見てもらい、説明なども行っています）
- 毎年6月には防災講演を開催。



団体概要

豊中市緑丘・西緑丘

少路校区
自主防災会

阪神淡路大震災・東日本大震災などの事例を受けて、2014年に災害時における避難所生活を想定した訓練を地域で協力して行うために少路校区自主防災会を結成（設立：2016年6月）。校区内で住民の隣保共同の精神に基づく自主的な防災活動を行い、地震やその他の災害による被害の防止、軽減を図る。また、豊中市危機管理課、新千里消防署等と連携をとり、情報交換を実施。災害時には、情報収集伝達、初期消火、救出救護、避難誘導等の応急対策、避難所運営等を行う。

連絡先 豊中市危機管理課 06-6858-2683

茨木地区自主防災会

茨木小学校区

ヒントにしたい！ 活動事例

「地域版避難所運営マニュアル」作成を通じて 地域の災害の危険性を把握

本会では、各種地域団体を対象とした説明会やワークショップを実施、各団体の特徴を活かし、顔が見える関係づくりにより、災害の危険性を把握したうえで、実践できるマニュアル作成を目指しています。

さらに、次世代への継承（地域団体の高齢化対策）、各避難所の運営を幅広い世代や人材が担える関係づくりを意識した活動を行っています。



活動のきっかけは？

過去から地域での防災訓練は実施していましたが、大阪北部地震の際、実際に自主防災会として避難所運営に関わり、行政の支援を待つばかりではなく、自助、共助の重要性を実感したことがきっかけになりました。



工夫したポイントは？

発災後の避難所運営や生活再建支援に関わる人の増加を目指し、地域の種々の団体（福祉、民生児童委員、公民館、PTA、NPO等）との連携を重要視しています。そのため、受講型だけでなくワークショップを取り入れた研修や、訓練の際に担当を割り振り、住民同士がコミュニケーションできる手法を取り入れ、災害の危険性を把握しやすくしたことがポイントです。



ヒントにしたい！ 活動事例

どんな効果が？

地域で活動している団体・住民等の顔が見える関係性を構築することで、災害の危険性を把握しやすくてきたことが一つの成果だと考えます。避難所運営を支える住民で防災の知識を共有し、発災時に即戦力として機能する体制づくりの推進にもつながっています。



その他の取組

- 地域防災訓練：毎年1月に実施。
- 自治会長への防災倉庫説明会：毎年5月に実施。
- 小学校への防災パーゴラ、かまどベンチ設置予定：茨木小学校創立150周年記念実行委員会と協力し設置。2024年3月に竣工式を開催。
- 福祉広報誌への防災情報掲載。

団体概要

茨木小学校区

茨木地区
自主防災会

小学校区を単位とし、地域自治会及び市からの補助金で運営している。実際の会運営は市の補助金で防災士資格を取得した防災士（7名）が毎月定例会議を開き、会の事業企画運営を行っている。例年の活動としては下記の事業を実施。

- ・ 自治会長等を対象とした防災倉庫説明
- ・ 地域防災訓練 ・ 防災訓練施設見学会
- ・ 地域各種団体を対象とした防災研修会
- ・ 防災協力員の募集

連絡先

茨木市総務部危機管理課 072-622-8121

コスタ・ミラにしきのはま自主防災会

貝塚市二色

ヒントにしたい！ 活動事例

マンション内における災害リスクを把握するため 「地震・津波タイムライン」作成

「マンション防災の新常識」〈著者・釜石徹（マンション防災士）〉を参考に、自主防災会委員とシニア会希望者によるグループワークを開催しました。合計3回のグループワークにより、地震・津波のタイムライン（防災スマートシート）を作成。住民の自主防災の行動を示しました。（完成版を全戸に配布）

1. 地震発生（屋内での身の安全確保と起きている火災消火）	
1.1 自分と隣近所はら避難の身の安全を守る	ヘルメット、防災頭巾に壁際に靴/スリッパを置く 窓や家具のガラスに防割防止フィルムを貼る 備前にタンス等を置かない 車庫駐輪防止のために車3つ脚を折り付ける 乗員の安全バックシートしておく
1.2 自宅（屋内）での避難場所を確保する。 できない場合は避難する。	消火器の用意、風呂には常に水を溜めておく
1.3 自宅の乗降口の状況確認する。	
1.4 玄関ドアを開放にする	ドアストッパーを取り付けておく
2. 地震後30分まで（2次災害の防止）	
2.1 ネットで情報収集する	スマホ、ラジオの手帳バッテリーの準備。自治組合から配布されたラジオの電源内装電をしておき、避難ケースを備入しておく。

「地震・津波タイムライン」イメージ

活動のきっかけは？

避難訓練に対する住民アンケートにより災害リスク、不安、訓練改善等の意見を抽出した結果をふまえ、マンション内の自宅での避難生活や、マンション内に避難所を設置し生活できるよう、地震・津波のタイムラインの作成に取り組みました。



工夫したポイントは？

タイムライン（防災スマートシート）を作成するにあたり、グループワークだけでなく、ポリ袋調理など、楽しめる体験を取り入れることで、自主防災組織に興味を持ってもらえるような工夫を行ったことがポイントです。参加者をはじめ、同席された市職員やアドバイザーの方々にも好評を得ることができました。



どんな効果が?

タイムライン（防災スマートシート）を作成したことで、災害発生時に頭が真っ白になり何もできない状況を改善する手助けになりました。

また、作成をきっかけに自主防災会で取り組むべき防災備蓄品の充実や、防災訓練のあり方について、議論を開始できたといった効果もありました。



その他の取組

- 市役所主導の要援護者抽出とは別に地域民生委員、住民へのアンケートによりマンション独自で要援護者名簿を作成し、年数回の家庭訪問で状況変化を把握・記録。
- 備蓄品リストを作成、掲示板に掲示。
- 活動状況や防災で知ってほしいこと、家庭内でやってほしいことを掲示板に掲示。
- 掲示内容の全戸配布。

団体概要

貝塚市二色

コスタ・ミラ にしきのはま 自主防災会

マンション『コスタ・ミラにしきのはま』の全戸514世帯全住民を構成員とする自治会の下部組織。2カ月に一度役員定例会にて資機材の点検、発電機の試運転とマンション内防災にかかわる打ち合わせおよび市役所およびパークタウン連絡協議会・防災専門員会（校区の防災会）からの情報共有を実施。年一回の津波避難訓練も実施している。

連絡先 貝塚市危機管理課 072-433-7392

北山本小学校区まちづくり協議会（北山本地区自主防災組織）

北山本小学校区

ヒントにしたい！ 活動事例

災害時の危険を回避する避難誘導マップを作成 高齢者と子どもをつなぐ訓練を実施

北山本地区は避難誘導マップを作成しており、そのマップを元に年1回訓練を実施しています。避難所となる北山本小学校の周辺には高圧電線など危険な場所があるため、各町会の集合場所や避難地までの道順を把握し、住民が安全に避難所へ移動できるよう意識づけをしています。



活動のきっかけは？

日中に災害が発生した場合、大人は仕事などで外出しており、地域には高齢者や子どもたちが多くなることが想定されます。そこで、子どもたちにも地域の災害の危険性を把握してもらい、近所の人を守る術を教えたいと考え、小学校の先生と協議し、児童が校区内に住むひとり暮らし高齢者を小学校まで避難誘導する訓練が実現しました。



工夫したポイントは？

小学校・地域・消防署等が協力し、子どもたちが積極的に参加できるように自主防災組織本部と小学校が密に話し合いを行い、子どもたちの参加が実現できたことがポイントだと思います。地域住民と子どもたちが顔見知りになることが大切だと考えます。



ヒントにしたい！ 活動事例

どんな効果が？

避難誘導訓練では、災害時の動きを学ぶことに加えて、地域の高齢者と子どもたちをつなげる機会になるといった効果があります。小学校高学年（6年生）には、「防災リーダー証明書」を自主防災組織本部長名で交付し、2024年までに約250名程度の「防災リーダー経験者」を輩出できました。



その他の取組

地域には、消防団及び祭保存会、はちみつの会（ふれあい喫茶協力）など、比較的若い方々のグループが組織され、その方々が地域の行事への参加、協力体制ができ上がっています。

団体概要

北山本小学校区

北山本小学校区 まちづくり協議会 (北山本地区 自主防災組織)

八尾市立北山本小学校区を単位とし、人口は5,100人程度。

まちづくり協議会は平成26年設立、現在21名で構成。同じく設立10年を数える自主防災組織本部は、まちづくり協議会委員及び北山本小学校管理者、災害ボランティア等で組織される。

連絡先

八尾市危機管理課 072-924-9870

新金岡校区自主防災会

堺市北区新金岡町

ヒントにしたい！ 活動事例

保護者が帰宅困難者となり不在の場合等に、 地域と学校が連携して、児童を守るための取組

生産年齢世代が多く暮らす新金岡校区では、保護者が平日の日中は地域を離れて仕事に出かけている場合があります。また、耐震化された集合住宅が多く、震災発生後の避難の方法としては、在宅避難を基本としています。そんな状況下において、大規模災害の発生直後、地域の子どもたちを学校・地域の連携で守るための取組です。



活動のきっかけは？

災害はいつ起こるかわかりません。平日の日中など、地域を離れて仕事に出かけている保護者が帰宅困難者となり、不在の自宅に子どもたちだけで親の帰りを待つ状況はリスクを伴います。この課題を解決するために、「新金岡ONEチーム」活動で対策することにしました。



工夫したポイントは？

まちぐるみの防災訓練では子どもたちが楽しみながら防災・減災のスキルを身に着けるような工夫がポイント。地域の児童生徒が主体的に活躍することにより「自分達が地域で役に立つ存在」であることに気づく（自己肯定感の獲得）取組につなげます。



ヒントにしたい！ 活動事例

どんな効果が？

小学4年生を対象とした「防災出前講座」の開催や、小中合同の集団下校訓練を行い、兄弟姉妹のいる中学生が小学校体育館まで迎えにいき合流して下校する（または体育館にて待機）練習をはじめました。徐々にではありますが、子どもから大人まで一体となった防災活動を進めて意識の向上が見られるようになりました。



その他の取組

- 地区防災計画の策定。
- リーダー研修。



団体概要

堺市北区新金岡町

新金岡校区
自主防災会

新金岡校区は堺市北区の新金岡団地内にあり、新金岡小学校、金岡北中学校の校区内で活動。「自助」「共助」に加え、（公助ではなく）「近助」のキーワードで、自分たちでできることを備えていくことの重要性を啓蒙するためにも、自治会という狭い世界観ではなく、小学生から中学生まで広く巻き込んで防災・減災のための情報を発信していきたいと考えます。

連絡先 堺市北区役所 自治推進課 072-258-6779

新東三国地域活動協議会

新東三国小学校校区

ヒントにしたい！ 活動事例

さまざまなイベントと同時開催で 訓練の参加者を増やす取組

小学校の保護者と児童を対象に人気の高い家族花火大会の後、そのまま家族で自前のテントを張って校庭に泊まる避難所宿泊体験「家族防災校庭キャンプ」を行いました。防災＝アウトドア＝キャンプという連想ゲームの発想です。参加したお子さんからは、来年もこのキャンプをしてほしいと言ってもらえて、とても嬉しかったです。



活動のきっかけは？

通常の防災訓練に児童の保護者世代の参加率が低いという課題を解決したいとの思いからです。災害時をイメージするのなら、まずは避難所である小学校に泊まってみるのが一番ではないかという結論に至り、実施する運びとなりました。また、保護者世代には、防災には関心が低くても、キャンプに関心の高い人が一定数存在しているのではないかとの思いもありました。

工夫したポイントは？

実施の日程を保護者と児童に人気の高い「家族花火大会」終了後とし、花火のついでに小学校に泊まるか？とご家族で相談してもらえればとの思いから、「家族花火大会」と同日開催としました。家族で参加してもらって、今後の地域活動に少しでも関心を持ってもらえるようなメニューにしました。



ヒントにしたい！ 活動事例

どんな効果が？

2023年度の参加者は3組でした。たった3組と思われるかもしれませんが、今まで地域活動に参加していなかった3組のご家族と繋がることのできたのは大きな効果だと思います。3組のご家族は、その後のクリーンウォークや新東三国体育厚生協会大運動会にも参加してくれています。自主防災組織のコアメンバーの絆も深まり、地域防災の意識も高くなりました。自らが一泊することで、非常用持出袋の中身の確認や、使ってみて使える、使えないことについて身をもって証明することができました。

その他の取組

【防災×投票所】選挙の投票日に「避難所公開DAY」を開催。

【地区防災計画策定】2020年に策定、2022年にver.2に更新。

さらに、2023年度はver.3に更新すべく、現在進行中。

【小学校×地域＝合同防災訓練】小学校、中学校、地域

で連携した防災訓練を行なっています。



団体概要

新東三国小学校校区

新東三国 地域活動協議会

淀川区東三国2丁目から3丁目にあり、概ね大阪市立新東三国小学校校区の地域住民を中心とした地域自治、自律を推進する団体。単身者の多い住宅地であるため町会加入率は約50%と低く、いわゆるコミュニティが希薄な都市型地域ではあるが、比較的新しく開発されたマンションや集合住宅が立ち並び、若い世代も地域活動に多く参画している。

連絡先

大阪市淀川区役所市民協働課（防災）06-6308-9734

高槻自主防災組織連絡会

高槻市全域

ヒントにしたい！ 活動事例

自主防災組織連絡会を中心として 市内自主防災組織が連携し訓練を実施

高槻市内に設立された自主防災組織が連携し、連絡会を運営しています（令和6年1月末現在、183団体が参加）。各組織における事例紹介や問題点等の情報交換、より充実した防災活動を行うための協議・意見交換を行う定例会や、連絡会が主催する防災訓練を実施。参加した各組織代表者には、所属組織内で共有してもらい、全体的な底上げを図っています。その他、施設見学会や研修会も毎年実施しています。



活動のきっかけは？

災害時には自分たちの地域を自分たちで守る自主防災組織の活動が非常に重要だと思うのですが、連絡会が発足した平成14年当時、市内に12組織あった自主防災組織はそれぞれで活動するも、中々情報共有や意見交換する場がなく、単独で組織を活性化させていくのは難しいと感じたことがきっかけです。



工夫したポイントは？

所属する市内自主防災組織が連携し、年1回連絡会主催の防災訓練を実施することで各組織の防災技術の向上を目指しています。また単独組織では保有しにくい訓練用資機材なども連絡会で管理して、資機材の貸し出しを行い、相互協力体制の強化を図ることがポイントです。



ヒントにしたい！ 活動事例

どんな効果が？

会議や訓練を通じて他組織での先駆的な取組や状況を共有することで、自分の組織でも同じように持っている悩みについて様々な意見に接することができます。また、他組織の取組内容に良い刺激を与えてもらえる場面も多いです。



その他の取組

- 1つの組織では準備が難しいような資機材も、高槻自主防災組織連絡会として保有し、各自主防災組織の訓練時に貸し出しを行っています。
- 概ね年1回、希望者を募り防災施設見学会を実施。見識を深めるとともに、参加者間のつながりを持てるよう企画を行っています。

団体概要

高槻市全域

高槻自主防災組織
連絡会

高槻市内に設立された自主防災組織が一体となって、地域に密着した対策を推進することにより、地震・風水害等による被害の防止及び軽減を図り、地域防災力を高め、より安心して暮らすことのできるまちづくりの実現を目標に連絡会を運営。

令和6年1月末現在、所属組織は183団体。

年3回、全組織に参加を呼びかける定例会を開催するほか、会主催の防災訓練や、施設見学会を実施し、所属組織間での情報交換や交流の場を提供。

連絡先 高槻市危機管理室 072-674-7314

深江連合振興町会

大阪市東成区深江

ヒントにしたい！ 活動事例

災害時協力企業と支援協力について覚書締結 ～訓練連携・災害支援協力・資機材提供～

大阪市東成区では「東成区災害時協力企業等登録制度」を創設しており、令和5年3月31日現在100を超える事業所等が登録されています。深江地域では同制度に登録している「瓜生製作株式会社」との間で覚書を締結し、相互に協力しあえる体制を整えました。これにより、地域で取り組む防災の幅が広がりました。



活動のきっかけは？

いつ起こるかわからない災害に備えるため、従来から地域住民を対象とした防災訓練を実施し、防災意識の向上に努めていますが、訓練を受けた大半の住民が地域外に働きに出てしまう平日の昼間に災害が発生した場合は、地域の事業所等が地域防災に加わっていただく必要があります。逆に休日等に災害が発生した場合、地域が事業所等の被害状況を確認する等、助け合うことで減災につなげることができると考えました。

工夫したポイントは？

行政を介さなければ企業や商店などと一緒に取り組む事が困難ですが、覚書を締結することで協力体制が構築でき、事業所等と直接話し合うことが可能となることから、地域の防災力をより一層高めるために、連携・協力できることが大きなポイントです。



ヒントにしたい！ 活動事例

どんな効果が？

覚書を締結したことで、連携した訓練の実施や、災害時に資機材の提供を受けるなどの相互支援が可能となり、地域全体の防災力向上に繋がりました。この覚書締結を出発点として、事業所の人材等、災害発生時に地域にとって必要な方々と繋がるという効果もありました。更に多くの方々を巻き込んで行きたいです。



その他の取組

- 9月と2月に「深江 防災訓練」を開催。毎回テーマをもってみんなで取り組んでいます。令和5年度は、9月開催時は自助、2月開催時は共助をテーマに実施。
- 町会には33の掲示板があり、情報を発信しています。
- 6月30日を深江防災の日として、研修会などを開催。

団体概要

大阪市東成区深江

深江連合振興町会

深江連合振興町会は昭和50年に設立され、また、災害救助部は、連合振興町会の設立と同時期に立ち上げて活動を行っており、防災リーダー52名の登録のもと、年2回（9月と2月）避難訓練等を実施。日頃から地域とのつながりの大切さを考えながら防災・防犯・コミュニティ・情報の共有を図りながら運営。現在15町会。

連絡先

大阪市東成区役所市民協働課市民協働担当 06-6977-9042

五月が丘地区防災委員会

吹田市五月が丘

ヒントにしたい！ 活動事例

防災倉庫ツアーの実施！ 備蓄品等へ関心集まる

五月が丘地区内には単位自治会ごとに11カ所の防災倉庫（その内自主防災組織がある5カ所では、充実した備蓄倉庫も整備）があり、災害時に備えています。防災倉庫ツアーでは、地区内の連携を深め、他組織の状況を知ることによって学びに繋がっています。また、住民に地区の状況を把握してもらうため、避難場所や過去の浸水被害地域、防災倉庫の位置を記載した地区防災マップを作成。全戸配布を行っています。



活動のきっかけは？

2013年当時、単一自治会（マンション）で自主防災組織が立ち上げられ、様々な活動が開始されていました。その経験を学ぶ防災講習会を行い、それを受けてそれぞれの防災倉庫がどこにあって、どのような資機材や備蓄がなされているのかを見学したのが、防災倉庫ツアーの始まりです。



工夫したポイントは？

それぞれの自主防災組織に見学等について事前に依頼し、時間的な調整などを行うことによりスムーズに実施できました。また、防災倉庫を見学するだけでなく、地域の防災に役立つもの（AED、消火栓、公衆電話など）の確認や防災食の試食、行政の防災倉庫や給水拠点の見学等、その時々で工夫して実施しました。



ヒントにしたい! 活動事例

どんな効果が?

自主防災組織を立ち上げたマンションでの防災倉庫を見せてもらうことで、その後に各自治会で自主防災組織が次々立ち上がりました。自らの地区防災及び行政等の防災資機材・備蓄品の現状の理解をすること等、防災意識高揚への足掛かりになりました。



その他の取組

- 五月が丘地区全体での総合防災訓練。
- 炊き出し訓練。
- 防災委員会所有の防災資機材の点検。
- 全戸配布チラシの作成と配布。
- 災害時要援護者への支援実施。



団体概要

吹田市五月が丘

五月が丘地区 防災委員会

五月が丘地区防災委員会は、阪神・淡路大震災の経験を踏まえ、地域の諸団体での協議を重ねて、翌年1996年（3月23日規約制定）に結成。

防災委員会は平時の組織で、「いざという時に、五月が丘の住民が無事に安全で、震災後は全員の安否確認ができ、互いに助け合い、避難所設営や運営がスムーズに行える地域に」を目指して、総会・防災委員会議・防災ツアー・総合防災訓練・炊き出し・防災講習会・要援護者対応等の活動を行う。

連絡先 吹田市危機管理室 06-6384-1753

美木多校区自治連絡会

堺市南区檜尾

ヒントにしたい！ 活動事例

防災無線を活用し、 地域全体の安全確認を実現

自治体ごとに防災無線を設置し、地域会館（美木多上）を拠点にして、各町会と連絡が取れるように準備をしています。また、各戸に黄色のステッカーを配布し、安全確認を過去3回実施。繰り返し防災（安全確認）訓練を実施し、1人でも多くの人々に防災意識を広めることが大切であると思います。



活動のきっかけは？

土砂災害危険地域（5町会）を抱える美木多校区。2017年の台風21号の被害を受け、現実起こりうる災害に対して日頃からの備えが大切と身に染みて感じ、地域力の強化を日常生活の中で育む必要を痛感したことがきっかけになりました。



工夫したポイントは？

美木多校区内は各エリアから指定避難場所までの距離が遠いので、校区内を4ブロックに分け、防災無線を使って安否確認等を行うことにしました。インフラが不通になっても情報を集めることができるのが、防災無線を導入したポイントです。



ヒントにしたい！ 活動事例

どんな効果が？

防災無線を利用することで、校区内の遠く離れた相手と情報共有ができ、安否確認もスムーズになりました。無線は免許等も不要で、ライフラインが活用できない場合でも離れたエリアと連絡を取ることができるようになりました。



その他の取組

- 過去10年間、危険地域に何度も足を運び、堺市の職員と認識を共有したこと。
- 民生委員並びに第一包括センターの職員と危険地域の住民に対して再度認識したこと。
- 地域住民に土砂災害の危険を認識いただくことで、自治会加入が困難な新興住宅（マンション・UR）の方々に自治会に加入していただきました。※2年間で1,432件。

団体概要

堺市南区檜尾

美木多校区
自治連絡会

泉北ニュータウンに隣接し、南北6kmの開発に伴う新興住宅（鴨谷台地区）により形成。自治会会員数2822世帯（令和4年4月現在）。土砂災害危険地域5町会では、防災避難の場合、2km単位4ブロックに分けて考慮している。

連絡先 堺市南区役所 自治推進課 072-290-1803